



平成29年5月17日

MFJ公認競技主催者およびエントラント 各位

一般財団法人

日本モーターサイクルスポーツ協会

技術委員会

JP250クラスの車両規則の解釈について

JP250クラス公認車両のCBR250RR（公認日5月22日）に関して以下の通りとする。

1. ラムダクト（ラム圧）車両

該当規則 7-3-29-2 ラムダクト（ラム圧）付きの車両

7-3-29-2-1 エアクリーナーボックス、ラムダクトおよび吸気ダクト、エアファンネルをMFJが公認した車両の状態に維持しなければならず、変更または改造は許可されない。
エアフィルター・エレメントは変更または改造、あるいは取り外すことができる。
フェアリングの変更は認められるが、エアダクト取り入れ口の位置、形状、面積は、MFJが公認した車両の状態を維持しなければならない。

- ① ホンダCBR250RRは前方からのエアダクトがエアクリーナーボックスに直接接続されており、JP250クラスのエアクリーナー関連規則に照らし合わせ、MFJとしてラムダクト（ラム圧）付き車両の扱いとする。
- ② ラムダクト（ラム圧）付き車両の規定に合わせ、エアクリーナーボックス、ラムダクト（レゾネーター含む）、吸気ダクト及びエアファンネルは公認車両の状態を維持すること。変更または改造は禁止される。
- ③ ラムダクトの空気取り入れ口の位置（方向）、形状、面積は公認車両の状態を維持しなければならないが、インナーカウル（パネル）の取り外しは認められる。
- ④ ラムダクトの入り口に空気を導入するための導風板やダクトの追加及びカウル形状の加工は禁止される。



インナーカウル（パネル）

レゾネーター

2. その他

- ・純正タンクカバーの材質変更（カーボン、ケブラー材は禁止）は認められるが、公認車両時の形状を維持しなければならない。
純正タンクカバーの取り外しおよびカバーとポジション調整パッド等との一体式への変更は認められない。（タンク保護カバーおよびポジション調整パッド等の追加は可能）
- ・CBR250R とのホイールの互換性はない。
- ・ホイール ベアリングとスペーサーの材質は、鉄である。
- ・容量 629cc 以上のオイルキャッチタンクを装着しなければならない。